

第4回 第2の習慣 終わりを思い描くことから始める

「終わりを思い描くことから始める」とは？



P.115
～ P.122

(P.118) 第2の習慣「終わりを思い描くことから始める」は生活のさまざまな場面やライフステージに当てはまる習慣だが、最も基本的なレベルで言うなら、人生における全ての行動を測る尺度、基準として、自分の人生の最後を思い描き、それを念頭において今日という一日を始めることである。

(P.119) 自分の葬儀で述べてもらいたい弔辞を真剣に考えてみてほしい。それがあなたの成功の定義になる。

(P.120) 「終わりを思い描くことから始める」習慣は、すべてのものは二度つくられるという原則に基づいている。すべてのものは、まず頭の中で創造され、次に実際にかたちあるものとして創造される。第一の創造は知的創造、第二の創造は物的創造である。

(P.122) 日々の生活の中で自覚を育て責任を持って第一の創造を行えるようになれば、自分の人生の行方を影響の輪の外にある状況や他の人たちに委ねてしまうことになる。

Work1

1. 登りきったあとで間違った壁に梯子をかけていたと気づいた経験はありますか。または、あなたの周りの人の様子を見てそう感じたことはありますか。それはどんな経験だったのでしょうか。

例1) 工学部に2年通ったが、どうしても自分の志すものと違う感じがした。退学後、3浪して医学部へ進学した。

例2) 休日出勤や残業を続け昇進したが、家族との関係が悪化した。何のためにあんなに仕事をしたのかわからなくなった。

部活に対する姿勢であったり、学校について、「卒業」がデザインされているもののなかで、
なんのためにその時間が必要だったのか。もっと終わってから思い描いていたら全く違うア
プローチができていたんじゃないかな。と。

2. あなたが、もしくはあなたのチームが、終わりをよく思い描いたことで成功した経験はどんな経験でしたか。

最近はつくることが多いので、その時にはいつも目標達成をして乾杯することをイメージして
取り組む。レストランをつくったとき、年上のスタッフを誘うときはいつも、ぼくらの墓標を
つくろうと。いつもあそこに一緒にレストラン作ったよね！と。

リーダーシップとマネジメント

 P.123
～ P.135

(P.123) 第 2 の習慣は、自分の人生に自らがリーダーシップを発揮すること、つまりパーソナル・リーダーシップの原則に基づいている。リーダーシップは第一の創造である。

(P.123) 成功の梯子を効率的にうまく登れるようにするのがマネジメントであり、梯子が正しい壁に掛かっているかどうかを判断するのがリーダーシップである。

(P.125) 効率的なマネジメントは揃っているけれども効果的なリーダーシップのない状態は、ある人の言葉を借りれば「沈みゆくタイタニック号の甲板に椅子をきちんと並べるようなもの」である。マネジメントが完璧でもリーダーシップの欠如を補うことはできない。

(P.127) 私たちは他者から与えられた多くの脚本に従って生活しているから、それらの脚本を「書き直す」よりもむしろ「書き起こす」プロセスが必要であり、あるいはすでに持っている基本のパラダイムの一部を根本的に変える、つまりパラダイムシフトしなければならないのだ。

(P.135) あなたが自分の人生におけるミッションを見出し、意識できれば、あなたの内面に主体性の本質ができる。人生を方向づけるビジョンと価値観ができ、それに従って長期的・短期的な目標を立てることができる。個人のミッション・ステートメントは、正しい原則を土台とした個人の成文憲法である。この憲法に照らして、自分の時間、才能、労力を効果的に活用できているかどうかを判断することができるのだ。

Work2

P.123 ～ P.124 に、リーダーシップとマネジメントの違いについて下記の例えがあります。

リーダーシップ	ジャングルの中で一番高い木に登り、全体を見渡して、「このジャングルは違うぞ！」と叫ぶ
マネジメント	斧の刃を研ぎ、方針や手順を決め、(途中省略) 作業スケジュールと給与体系をつくる


1. 上記を踏まえながら、参加者全員でリーダーシップとマネジメントの違いについて話し合ってみましょう。

マネジメントは正しく行うことであり、リーダーシップは正しいことを行う
ハシゴを効率的に上手く登れるようにするのがマネジメントであり正しい壁にかかっているのかどうか
を判断するのがリーダーシップである。
リーダーシップは第一の創造。マネジメントは第二の創造である。

2. あなたがリーダーシップを発揮したいこと、マネジメントしたいことはどんなことでしょうか？

アジアベストレストランTOP100に北海道から初めてランクインする！という目標値を定める
そのための戦略づくり

内面の中心にあるもの

 P.136
～ P.164-L.12

(P.136) 個人のミッション・ステートメントを書くときは、まず自分の影響の輪の中心から始めなければならない。影響の輪の中心にあるのはあなたの最も基本的なパラダイムである。

(P.136) 影響の輪の中心に自分の努力を傾けることによって、輪は広がっていき、大きな成果を達成できる。影響の輪の中心に努力を集中させることが、PC(成果を生み出す能力)の向上につながり、私たちの生活のあらゆる面の効果性を高める。

自分の人生の中心に置くものが何であれ、それは安定、指針、知恵、力の源になる。

(P.137) この四つの要素(安定、指針、知恵、力)は、相互に依存し合っている。心の安定と明確な指針は正しい知恵をもたらし、知恵は火花となって、力を正しい方向に解き放つ。この四つが一つにまとまり、調和がとれ、個々の要素が互いを高める状態になっていれば、気高く、バランスがとれ、揺るぎない見事な人格ができる。

(P.138) これら人生を支える四つの要素は、生活のあらゆる面を磐石にする。

(P.139) 人は誰でも自分の中心を持っている。普段はその中心を意識していないし、その中心が人生の全ての側面に大きな影響を及ぼしていることにも気づいていない。

Work3

P.150～P.159に様々な中心(配偶者中心、家族中心、お金中心、所有物中心、仕事中心、娯楽中心、友人中心、敵中心、教会中心、自己中心、原則中心)の4つの要素(安定、指針、知恵、力)の表があります。あなたは何を中心に行っているでしょうか。いくつかが組み合わさっていますか。気づいたことを書き留めてみましょう。

いくつも組み合わさっている。

.....
そしてどれも薄い。。原則中心であるということが一番しっくりくる。
.....

.....
成長したのか、それとも向き合っていないのかはわからないけども、街が自分を応援してくれているように思える。それは小さなころからいつも原則と向き合ってきたからかもしれないとも思える。
.....

.....
自分のフェーズによっても違うのかなとも思える。たとえば若いうちは何か中心があっただろうし、もしこれから年を重ねていけば原則ではないものに依存してしまうのかもしれないとも思える。
.....

個人のミッション・ステートメント

 P.164-L.13
～ P.190

(P.164) 自分の内面を深く見つめ、自分が持っている基本のパラダイムを理解し、それを正しい原則に調和させると、力を与えてくれる効果的な中心ができ、そして世界を見る曇り一つないレンズも持つことができる。

(P.165～) 個人の責任あるいは主体性は、第一の創造の基礎となる。コンピューターのたとえを再び持ち出すが、第1の習慣は「あなたがプログラマーであり、自分には責任があるのだということを受け入れない限り、プログラムを書く努力はできないだろう」と言っているのであり、第2の習慣は「あなたがプログラムを書きなさい」と言っているのだ。

役割と目標を特定する

(P.175) 論理と言語を司る左脳も大事である。右脳でとらえたイメージや感情、映像を言葉にしてミッション・ステートメントにするのは左脳の仕事だ。

(P.176) ミッション・ステートメントを書くとき、あなたの人生での役割を明確にし、それぞれの役割で達成したい目標を立てれば、バランスがとれ、実行しやすいものになるだろう。

(P.177) 自分の人生での大切な役割を念頭に置いてミッションを書くと、生活にバランスと調和が生まれる。それぞれの役割をいつでも明確に意識することができる。ミッション・ステートメントを折に触れて目にすれば、一つの役割だけに注意が向いていないか、同じように大切な役割、あるいはもっと大切な役割をないがしろにしていないか、確かめることができるのだ。自分の役割を全部書き出したら、次はそれぞれの役割で達成したい長期的な目標を立ててみる。

(P.180) 家族のミッション・ステートメントにおいても、つくり上げるプロセスが、できあがった文面と同じように大切である。ミッション・ステートメントを書き、磨いていくプロセスそのものが、家族の絆を強くする鍵となる。

Work4

1. 人生における自分の重要な役割は何ですか。例) 親、娘、〇〇部長、〇〇プロジェクトリーダーなど (P.175 ～ P.178 を参照)

親・子・統括支配人・レストラン

2. 各役割において、達成したいことはどんなことですか。(P.176)

例) 父親: 子どもが生きる力を持った自立した人になるよう育てる

親～子どもたちにたくさんの愛情を注ぎ、子どもたちが愛情あふれる子どもに育ってほしい-----

子～親に受けたたくさんの愛情に感謝し、たくさんの愛で返じたい-----

統括支配人～SVDのアジアベストレストラン-----

レストラン～子どもたちがレストランやホテルで働きたい! と思ってもらえるような仕事にした-----

3. 各役割において、あなたはどのようにありたいと思っていますか。(P.176)

例) 父親: 子どもの将来を視野に入れた長期的な視点を持ち、愛情深くある

導き手

Work5

今のあなたにとって、第2の習慣のPは何だと思いますか。PCを向上させるためにどのようなことを行ないますか？

アジアベストレストランTOP 100に北海道から初めてランクインする

その瞬間を迎えるための積み重ね

自己宣誓

*第2の習慣では、「ミッション・ステートメントの草案作成」が必須の実践項目です。

アジアベストレストランTOP100にランクインした時、仲間たちとどうやって喜びを分かち合うかを毎日イメージする。そしてその後どうしていきたいかを、仲間たちと語り尽くす日を設ける。

第2の習慣 必須実践項目：個人のミッション・ステートメント作成

(P.131) 終わりを思い描くことから始める習慣を身につけるには、個人のミッション・ステートメントを書くのがもっとも効果的だ。ミッション・ステートメントとは、信条あるいは理念を表明したものである。個人のミッション・ステートメントには、どのような人間になりたいのか（人格）、何をしたいのか（貢献、功績）、そしてそれらの土台となる価値観と原則を書く。

Work1

ミッション・ステートメントを書く準備として、自分の大切にしている価値観や原則、貢献したいこと、どんな人でありたいのかなどについて掘り下げてみましょう。

- 1.（結婚している方、もしくはこれから結婚したいと思っている方に向けて）25回目、あるいは50回目の結婚記念日のとき、どのような家族の姿をつくりあげていたいですか（P.169）。

2. 今の仕事を引退する日を想像します。そのときまでに、あなたの分野で、あなたはどんな貢献をしたいですか、何を達成したいですか（P.169）。

3. あと1年しか生きられないと仮定します。時間もお金も健康も亡くなる直前まで十分にあるとしたら、あなたはこれからの1年をどう過ごしますか（P.170 質問の応用）。

4. あなたの人生にとって一番大切なことは何ですか（P.170）。

5. どのような人間でありたいですか (P.170)。

.....

.....

.....

.....

6. 本当にやりたいことは何ですか (P.170)。

.....

.....

.....

.....

7. あなたの人生の最後の場面、あなたの葬儀がこれから始まると仮定して、下記のことを想像してみてください。

今から3人が弔辞を述べます。最初は家族、2人目は友人、3人目は仕事関係の人。しばらく深く考えてみてください。これらの人たちにあなた自身のことと、あなたの人生をどのような言葉で語ってほしいですか。(P.116～P.117)

家族：氏名

語って欲しい言葉

.....

.....

.....

.....

.....

.....

友人：氏名

語って欲しい言葉

.....

.....

.....

.....

.....

.....

仕事関係の人：氏名

語って欲しい言葉

ミッション・ステートメントの草案

(P.171) 良い自己宣誓書は、五つの条件を満たしている。個人的な内容であること、ポジティブな姿勢が表現されていること、現在形で書かれていること、視覚的であること、感情が入っていること、この五つである。私ならこんなふうを書くだろう。「子供たちが良くない振る舞いをしたとき、私は（個人的）、知恵と愛情、毅然とした態度、そして自制心を持って（ポジティブな姿勢）対応する（現在形）ことに、深い満足感（感情）を覚える」

Work 2

P.131～P.133のミッション・ステートメントも参考にしながら、どのような人間になりたいのか（人格）、何をしたいか（貢献、功績、ミッション、ビジョン）、大切にしたい価値観や原則を、手を休めずに一氣に書いてみましょう。文章の体裁など気にする必要はありません。まずは草案として思いつくまま書き留めていきましょう。

[illegible]